



# 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

平成30年度 校内研究テーマ

## 「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導の在り方」

～ 育成を目指す資質・能力の共有と学習評価の充実 ～

(3年次研究の1年目)

### 1 研究テーマについて

新しい学習指導要領では、子どもたちが未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成するために、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体をとおして育成を目指す資質・能力を三つの柱で整理し明確にすることや、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進すること等が求められている。

本校は、高等部のみ支援学校として、開校以来これまで専門教科やキャリア教育について実践を重ね、生徒の自立と社会参加を目指す教育に努めてきた。昨年度、一昨年度の取り組みでは、「生きる力」の一つである「確かな学力」を育むために「知識・理解・技能」、「思考・判断・表現」、「意欲・関心・態度」の三つの観点を取り入れた授業と評価の在り方を検討するために各科での授業実践をとおして、観点別評価を取り入れた指導案の様式の整備及び個別の指導計画の目標の設定や評価の方法、専門教科の単元構成の整理と評価規準の設定に取り組んだ。取り組みをとおして、評価規準の設定や生徒の実態に合った適切な指導目標の設定、客観的な評価の方法などについてさらに研究を深める必要性が指摘された。

そこで、今年度は、本校に求められる社会的ニーズや生徒のニーズをふまえた本校で育成すべき能力・資質を確認・共有すること、三つの観点を三つの柱にとらえなおした単元ごとの評価規準の設定を全ての教科等で進めること、生徒一人ひとりの実態に応じた目標設定と観点別評価の精度をあげるための手だての検討を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための土台作りを進めたいと考える。

### 2 研究の内容・方法

- 1 教育目標等より本校のめざす生徒像や本校で育成すべき資質・能力の要素を整理し、職員間で共有する。
- 2 卒業時までの育てたい力と各学年における到達目標を各教科等毎に整理する。
- 3 三つの観点(三つの柱)の評価規準を各教科等の分野や大単元ごとに設定する。
- 4 三つの観点(三つの柱)の学習評価との充実を図る。
- 5 「思考力・判断力・表現力等」を育てる授業実践や手だて(ICT活用含む)を検討する。
- 6 「主体的・対話的で深い学び」に関する校内研修を行い、理解を深める。

### 3 期待される研究の成果

- 本校のめざす姿がより具体化されることで、指導のポイントが明確になり、系統的な学習が推進される。
- 評価規準が明確になることで、学習への意欲の向上や指導方法の改善が図られる。
- 三つの柱を意識した指導により、生徒の自分で考え判断したり、伝えたりする力を高める。